

がん登録担当者 研修会報告

杉山 裕美 理事

(公財)放射線影響研究所疫学部



平成29年6月8日、がん登録担当者研修会が開催されました。

初めに、松田智大先生(国立がん研究センター)から米国、欧州、アジアの地域・院内がん登録実務、多国間ネットワークを駆使した協同研究の様子を一気に報告いただきました。近年はデータ集計値だけでなく、視覚的にも理解しやすい表示、科学的エビデンスや介入プログラムも情報提供されている様子を力強くご報告されました。日本でも47都道府県のデータが集まる仕組みが整い、国際貢献、世界への情報発信をさらに充実させていく時期に来たことを実感しました。

福留寿生先生(三重大学医学部附属病院)からは、がん登録実務者のための病理総論をご講演いただきました。普段届出票やカルテなど紙面(画面)を見ている実務者にとっては、がん組織をちくわやスポンジに見立てた説明は、より具体的なイメージとして理解できたのではないのでしょうか。

大木いずみ先生(栃木県立がんセンター)からはデータ蓄積の浅い県でもできるがん登録の解析として、これまでの栃木県の歩みを例に、まずは精度を上げる、罹患の単年集計報告や生存率データ解析を積み重ねる、経年変化の観察、検診精度管理、拠点病院カバー率の把握、国際研究への協力など段階を追ってご講演いただきました。5大陸のがん罹患(CI5)や世界的生存率解析研究のCONCORD Studyへのデータ提出も夢ではないと、担当者には刺激になったのではないのでしょうか。

海崎泰治先生(福井県立病院)からはUICC-TNM7版から8版への変更点、注意点をご解説いただきました。院内がん登録では2018年1月症例から第8版が採用予定だそうです。皆さま心のご準備をお願いいたします。

翌朝、この研修会の様子がNHKで放送され、寺本学会長の「専門的で難しい情報を患者やその家族にどう伝えていくべきか、追求していきたい」と力強いコメントで締めくくられていました。

JACR学術集会に参加して 院内がん登録実務者からの報告

門田 佳奈子 楠原 美奈

愛媛県立中央病院 診療情報病歴室



私たちはJACR学術集会に今回初めて参加させていただきました。今年から院内がん登録に関する内容も含まれるようになったということで、大変関心を持っておりました。今回は愛媛県開催ということもあり、愛媛県のイメージアップキャラクター「みきゃん」がロビーでお出迎えし、参加者全員に県民のソウルドリンク(!?)みかんジュースが配布されるなど、県外の参加者が楽しめるイベントが盛りだくさんでした。

がん登録担当者研修会では、担当者が実際に必要とする知識・情報を楽しく、分かりやすく教えていただきました。今年全国がん登録が始まり、院内がん登録の標準登録様式も変更されましたが、特に教育講演の「全国がん登録・院内がん登録アップデート」では、がん登録担当者が知りたい・聞きたい内容が盛り込まれており、とてもためになったのではないのでしょうか。

ポスターセッションにおいては各都道府県の取り組みやがん登録勉強会・データの集計・データの公表方法など、多くの病院の取り組みを知ることができ、また直接担当者のお話も聞け、有意義な時間だったと思います。がん登録を行う上で私たちが悩んでいるところは、他の施設の担当者も同じように考えていることが分かり、実務に繋がる情報共有ができました。

また、一般口演では、都道府県によって罹患率の高い部位が異なっているということに改めて気付きました。それぞれの地域の特徴を掴み、対策を立てるためにもがん登録は有用であり、私たちが登録するデータにはより正確性が求められていると感じました。

全体を通して、がん登録データを利活用する取り組みの紹介が多く、これから当院が力を入れていかなければならない分野だと痛感しました。また、住民や患者さんに対しての情報提供が思っていた以上に進んでいる県もあり、みなさまの取り組みを参考にさせていただきたいと思います。

このような会に参加させていただきありがとうございました。